

# 令和2年度 延岡市立岡富小学校 学校評価

(4段階評価) 4 期待以上      3 ほぼ期待通り      2 やや期待を下回る      1 改善を要する

本年度の重点目標 (1 確かな学力の定着 2 豊かな心の育成 3 健康・安全教育、食育の充実 4 家庭や地域に信頼される学校づくりの推進)

| 評価項目    | 評価指標   | 学校の自己評価結果のコメント  | 自己評価 | 学校関係者 | 関係者評価コメント  |
|---------|--|---|------|-------|--|
| 学力の向上   | ① 授業をとおして基本的な学習態度と学習習慣の育成に努める。(めざましタイム・チャイムスタート・立腰指導・準備時間)                     | 姿勢カードを使って、児童の姿勢指導を行い、低学年には効果的であった。さらに児童が意欲的な学習態度になるよう、分かる授業興味関心を引き出す授業等に取り組みたい。また、いつもチャイムスタートできるよう、準備時間の過ごし方等を具体的に指導したい。                        | 3    | 3     | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 一人1台タブレットの時代を迎え、新たな学習環境を踏まえた学習指導の充実に向け、更に研修を深めてほしい。そして、自分の頭で考え、判断し、行動できる児童の育成を目指し、児童主体の授業改善に取り組んでほしい。</li> <li>○ 家庭学習については、保護者と連携を図りながら、児童一人一人に応じた内容で、量より質を重視する家庭学習に転換する必要性を感じた。</li> </ul> |
|         | ② 学習環境を効果的に活用し、分かる授業に努める。(ICT)   | 国語や算数において、デジタル教科書を活用し、児童にとって分かる授業に取り組んだ。また、職員研修においては、国語科の指導についての研修を深め、読む力の向上に取り組んだ。次年度、一人1台タブレットの活用法について、研究を深める必要がある。                           |      |       |  |
|         | ③ 家庭との連携を行い、家庭学習の充実に努める。(家庭学習の在り方)   | 学習内容の定着を図るために、家庭と連携を図り、漢字の練習や宿題、自学ノートに取り組んでいる。学年の発達段階に応じて、家庭学習の時間や内容を示しているものの、家庭によっては家庭学習の習慣が身に付いていない家庭もあり、家庭との連携が課題と言える。                       |      |       |  |
| 豊かな心の育成 | ① 生徒指導体制の充実を図り、「岡小みんなのきまり」に基づいた生活態度の育成に努める。(8:00チャイム黙想・あいさつ・無言移動・遅刻・不登校児童への対応) | 各家庭に「岡小みんなのきまり」を配付し、約束事を確認し、全職員で共通理解・共通実践を行った。保護者からの連絡に対しては、「スピードこそ保護者への誠意」と考え、すぐに対応し、解決を図っていった。また、年度途中より「5つの無言の場」を設定し、全体的に落ち着いた生活態度で過ごすことができた。 | 2    | 3     | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「5つの無言の場」は児童にとって良い習慣を身に付けることができ、清掃時間の様子から、その取組の確かさが感じられた。また、年度当初と比較して、子どもたちのあいさつが良くなってきていると感じる。</li> <li>○ 今後、学校と地域の方々との交流を通して、「顔」の見える学校・子ども・地域づくりをお願いしたい。</li> </ul>                       |
|         | ② 全教育活動をとおして、相手の立場を尊重する心の育成や人権意識の高揚に努める。(人権教育の充実)                              | 「～です」「～します」など、時と場、相手に応じた言葉遣いが不十分であった。やり直しの指導をさせるなど、全校で取り組んだことにより、少しずつ良くなってきている。   |      |       |  |
|         | ③ 特別な支援の必要な児童に対する支援体制の充実に努める。(特別支援ケース会議等の充実)                                   | 特別支援学級ばかりでなく、通常学級においても困り感をもつ児童について、個別に協議を行い、関係機関と連携を図ることによって、支援体制の確立を進めていった。一人一人のつまずきをつかみ支援をしていくことができた。   |      |       |  |

|         |  |   |   |   |   |
|---------|--|---|---|---|---|
| 健康・安全教育 | ① 体力向上プランをもとにした体育指導をはじめとして、体育に関する行事等を通して、体力の向上に努める。(パワーアップ運動・チャレンジ6)       | パワーアップ運動とともに定期的にチャレンジ6運動に取り組んだ。秋は運動会、冬はなわとびに取り組み、時期に応じた運動を通して、体力づくりを進めたが、コロナ禍ということもあり、十分な体力向上には至らなかった。  | 3 | 3 | <p>○ 新型コロナウイルス感染症の感染対策は学校での指導が徹底されており、その取組が家庭へも波及し、児童の「マスク着用」「検温」「手洗い・うがい」等の習慣が身に付いていると言える。体力向上については、今後も継続的な取組を行い、さらなる向上を望む。</p> <p>○ 校舎老朽化等に伴う校舎内外の修繕や不審者への対応のための整備や職員の共通理解など、児童の安全と学校の防犯の両面で、充実した取組が見られた。長期的な対応が必要とされるものもあるので、今後も教育委員会と連携を図りながら、継続して取り組んでほしい。</p> |
|         | ② 健康教育を推進し、健康の保持増進に努める。(早寝・早起き・朝ごはん運動、熱中症防止、新型コロナウイルス感染症予防)                | 「生活リズムチェック表」を使って、「早寝・早起き・朝ご飯」の習慣づくりに家庭と連携して取り組んだ。また、学校においても、新型コロナウイルス感染症の感染対策のため、「マスク着用」「検温」「手洗い・うがい」等のチェックを毎日行い、年間を通じて子どもたちに意識付けを図ることができた。                                       |   |   |   |
|         | ③ 校内の安全管理に努めるとともに、安全指導の徹底を図り、危険予知能力と危険回避能力の育成に努める。(防災教育)                   | 全職員で学校施設の安全点検を毎月実施し、気になる箇所等の修繕等を行っている。校舎の老朽化が進んでおり、長期的な計画で進めている。本年は、階段手すり、運動場砂場の整備、水道工事、渡り廊下照明器具交換等、教育委員会との連携を図りながら進めていった。また、非常時を想定した職員だけの引き渡し訓練、不審者対応訓練を行うことができ、今後の指導に活かすことができた。 |   |   |   |
| 学校力の向上  | ① 指導内容の精選により、鍛える授業を実践し、基礎的・基本的な内容の定着に努める。(めあて・まとめの設定・指導内容の精選・習熟)           | 「めあて」と「まとめ」の整合性や指導内容等の精選、習熟の時間の設定など、「授業参観の視点」を活用し、職員の授業改善を行った。また、国語科において、全職員で1つの単元について教材研究を行い、授業づくりの在り方について共通理解を図ることができた。   | 3 | 4 | <p>○ 若手職員の授業力向上を目指しながら、全職員が共通の授業改善の視点をもとに、授業や職員研修に取り組んでおり、教師としての資質の向上が見られる。</p> <p>○ コロナ禍だからこそ、何ができるかを考え、行事等を計画・実践した取組が素晴らしい。今後は、感染対策を講じた上で、地域の人材や素材を活用した行事等の実施を期待する。<br/>また、地域に対して、HPやメディア等を活用したさらなる情報発信を望む。</p>   |
|         | ② 校内研修を中心とした教育活動やOJ Tを推進し、岡富中学校ブロックによる小中連携を図りながら、9年間を見通して学力の向上に努める。        | 初期研修1年目・2年目の職員の指導について、全職員が関わり、人材育成に取り組んでいくことで、学校力の向上につなげることができた。コロナ禍の中、岡富中学校職員による6年生への指導を行ってもらい、中学校進学への不安を解消し、希望をもたせることができた。  |   |   |   |
|         | ③ 校内の情報を積極的に発信するとともに、地域の人材や素材を活用し、地域理解に努め、開かれた学校づくりに努める。(HP・学校だより・参観日等の充実) | 各学級担任が定期的に学級通信を発行し、クラスでのエピソード等を紹介した。様々な学年の学習で、メディアへの取材依頼を行い地域へ岡富小学校の良さを情報発信した。また、メール配信方法を変更し、学校で作成した文書が携帯等で見られるようにした。   |   |   |   |

【 次年度に向けて 】

|   |
|---|
| <p>○ 「学力の向上」:「できる・分かる」喜びを味わえるように、一人1台タブレットなど、ICTを活用した授業を充実させていきたい。また、宿題や課題(自宅学習)については、職員の過度の負担にならず、かつ効果のある内容に精選していきたい。</p> <p>○ 「豊かな心の育成」:一人一人の悩みに対応するために、今後もアンケートや日々の観察を丁寧に行う必要がある。また、教育相談週間や学期1回、教育相談日を設けるなど、コロナ禍の中でも子どもが落ち着いて学校生活を送ることができるようにしていく。</p> <p>○ 「健康・安全教育」:各種検診結果を保護者に確実に伝え、治療率を向上させることが必要である。また、子ども自身が自分の健康状態に関心をもち、毎日元気に過ごせる喜びを味わえるようにしたい。新型コロナウイルス感染症の感染対策については、今後も継続していく。</p> <p>○ 「学校力の向上」:地域資源の積極的活用(外部人材や地域の自然や歴史、施設等を生かした豊かな体験活動の実施等)を図り、家庭と地域と連携しながら、子どもの成長を支えるようにしたい。そのためにも、学校の情報をHPや各種通信、メール、メディア等を活用して、家庭や地域に積極的に発信する必要がある。</p> |
|---|